



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2025年3月期 決算概要説明

2025年5月22日

投資家の皆様、こんにちは。小松ウォール工業 代表取締役の加納です。本日は、当社の2025年3月期決算概要説明の動画配信をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

■ 事業概要	2
■ 2025年3月期 決算概要	7
■ 2026年3月期 業績予想	13
■ 中期経営計画進捗	16
■ 資本コストや株価を意識した経営	22

本日、目次としまして、事業概要、2025年3月期決算概要、2026年3月期業績予想、中期経営計画の進捗、資本コストや株価を意識した経営の順でお話をさせていただきます。ご質問ですけれども、チャットで随時受け付けております。説明の後に回答させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、説明を始めます。

2025年3月期 決算概要説明

事業概要

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

2

事業概要です。

会社概要

小松ウォール

社 名	小松ウォール工業株式会社
代表取締役社長	加納 慎也
設 立	1968年1月
上 場 市 場	東証 プライム (7949)
事 業 内 容	可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切の製造、設計、販売、施工等
売 上 高	446億円 (2025年3月末)
従 業 員 数	1,399名 (2025年3月末)
本 社	石川県小松市工業団地1丁目72番地
営 業 拠 点	全国54支店 (2025年3月末)

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

3

小松ウォール工業株式会社ですが、東証のプライム市場に上場しています。

事業内容としまして、可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切といった、間仕切の製造、設計、販売、施工をしている企業になります。

本社は石川県の小松市にありまして、営業拠点は全国に54ヶ所あります。

主要製品 売上高構成比

小松ウオール

可動間仕切

売上高 19,661 百万円
構成比 44.1 %



固定間仕切

売上高 9,398 百万円
構成比 21.1 %



トイレブース

売上高 7,753 百万円
構成比 17.4 %



移動間仕切

売上高 6,012 百万円
構成比 13.5 %



ロー間仕切

売上高 609 百万円
構成比 1.4 %



売上高

44,616

百万円
(2025年3月期)

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

4

当社の主要製品をご紹介します。

左上から可動間仕切。主にオフィスで使われているスチールパーティションというものを指しています。

固定間仕切。病院や老人ホームに使われている建具になります。

トイレブース。トイレの大便器周りのパネルになります。

移動間仕切。ホテルの宴会場やコンベンションホールで使われる大型のものから、オフィスで使われるスライディングウォールまで作っています。

ロー間仕切。背の低いパーティションも作っています。

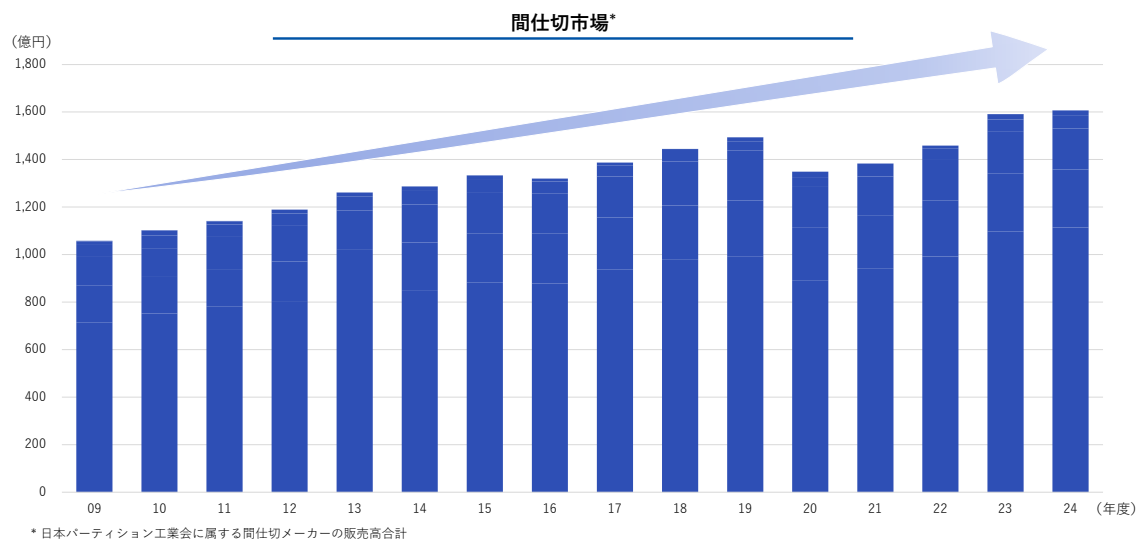
合わせまして前期で売上高は446億1,600万円という数字でした。

市場環境

小松ウオール

■ 2020年度のコロナ禍による減少後は着実に回復、2024年度は0.9%増の1,606億円の販売高と過去最高の販売高

■ 2024年もオフィスビルの竣工は減少したと推定されるが、リニューアルの増加で間仕切市場が好調



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

5

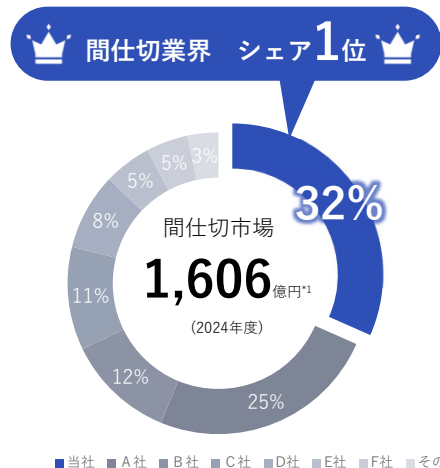
当社が所属しております間仕切市場、その規模についてお話をさせていただきます。こちらが日本パーティション工業会に所属する間仕切メーカーの販売高合計、その近年の推移を表したグラフになっています。

2019年にかけて再開発の案件ですとか、東京オリンピックの関連施設など大変需要が強くありまして、右肩上がりという形でした。2020年にコロナ禍で下がってしまいましたが、コロナ明けとともにオフィスのリニューアル需要が強いことに加えて、再開発の案件も再び活発になっておりまして、進捗している格好です。

2024年度で1,606億円という市場になります。

当社のポジション

■ 2024年度の間仕切市場は1,606億円、当社のシェアは業界トップの31.6%（前年度は31.0%）で前年度比0.6ポイント上昇、市場規模の大きい可動間仕切に加えて、移動間仕切、トイレブースでトップシェア



* 当社調べ

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

可動間仕切

30.3% シェア1位
(前年度 28.6%)

移動間仕切

38.8% シェア1位
(前年度 38.1%)

トイレブース

36.1% シェア1位
(前年度 37.1%)

学校間仕切

14.9% シェア4位
(前年度 16.8%)

壁面化粧パネル

32.3% シェア2位
(前年度 53.6%)



その間仕切市場の中で、当社は32%のシェアを持っており、業界第1位のメーカーでございます。今後もシェアを拡大させていくとともに、新しい市場にも出ていきたい、という風に考えています。

2025年3月期 決算概要説明

2025年3月期 決算概要

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

7

2025年3月期決算概要について、お話をさせていただきます。

決算概要

小松ウオール

- オフィス向けが好調で売上高は前期比2.4%増収、従来予想比では福祉・厚生施設向け等が減収となり3.0%の未達
- 高付加価値製品の販売が増加し、売上総利益は6.9%増益となったが、賃借料や物流費の増加により、営業利益は前期並み
- 2025年1-3月期に限れば、オフィス向けの好調に加え、文化施設向けも増収となり、売上高は6.3%増収、営業利益は65.0%増益

単位：百万円	2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期従来予想 (24年4月時点)		2025年3月期実績		前期比 増減率	予想比 増減率
売 上 高	37,772	100%	43,551	100%	46,000	100%	44,616	100%	2.4%	△3.0%
営 業 利 益	2,306	6.1%	3,640	8.4%	3,800	8.3%	3,635	8.1%	△0.1%	△4.3%
経 常 利 益	2,363	6.3%	3,732	8.6%	3,850	8.4%	3,756	8.4%	0.6%	△2.4%
当 期 純 利 益	1,627	4.3%	2,775	6.4%	2,850	6.2%	2,650	5.9%	△4.5%	△7.0%
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	87円64銭		149円04銭		153円03銭*		145円64銭*		△2.3%	△4.8%
1 株 当 た り 配 当 金	47円50銭		62円50銭		65円00銭**		65円00銭**		4.0%	—

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。1株当たり当期純利益は分割後の株数で算出、過去実績も適及修正

** 2025年3月期の配当は期初に株式分割があったものとして算出、過去実績も適及修正

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

8

前期ですね、締まりまして売上高は446億1,600万円。営業利益で36億3,500万円。経常利益で37億5,600万円。当期純利益で26億5,000万円。1株当たりの当期純利益は145円64銭。1株当たりの配当金は65円としています。

前期はオフィス向けの可動間仕切が大変好調でしたが、一方で福祉・厚生施設向けというものが想定よりも伸びず、売上としては前期比で2.4%伸びておりますが、対予想比では3.0%ショートしています。

高付加価値製品の販売が増加しまして、売上総利益は6.9%増益となっておりますが、賃借料や物流費といったコストの増加がありまして、営業利益は前期並みとなっております。

品目別売上高

小松ウオール

- 可動間仕切はオフィスや学校・工場向けが好調、軽量ドアなどの固定間仕切もオフィスや文化施設向けが堅調に推移
- 受注残はその他を除いた全品目で増加、オフィスや学校・文化施設などが引き続き堅調で、可動間仕切と固定間仕切は2桁の増加

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期		受注高	前期比増減率	受注残高	前期比増減率
		実績	前期比増減率				
売上高	43,551	44,616	2.4%	46,833	7.2%	18,897	13.3%
└ 可動間仕切	18,316	19,661	7.3%	20,891	15.0%	5,283	30.3%
└ 固定間仕切	9,184	9,398	2.3%	9,989	0.9%	5,615	11.8%
└ トイレブース	8,033	7,753	△3.5%	8,059	0.2%	3,444	9.8%
└ 移動間仕切	5,963	6,012	0.8%	6,120	8.8%	4,164	2.7%
└ ロー間仕切	641	609	△4.9%	628	0.9%	85	27.1%
└ その他	1,410	1,181	△16.2%	1,145	△13.2%	303	△10.7%

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

9

品目別の売上高について、お話をさせていただきます。まず実績のところですが、可動間仕切は大変好調でした。前期比で7.3%伸びています。全体では2.4%の伸びとなっています。

受注高、受注残高についても同様でして、受注高において、可動間仕切は前期比で15%の伸び、全体では7.2%の伸びとなっています。

受注残高については、可動間仕切は30.3%の伸び、全体では13.3%の伸びとなっています。オフィス向けの可動間仕切といったものを主軸としながら、その他の製品でも着実に伸ばすことができまして、受注残高としては豊富な状況です。

大型ショールーム開設・増床

小松ウオール

- 2019年から大型ショールームを強化し、大阪、東京、名古屋にショールームを順次開設
- デザイン事務所や依頼企業が当社製品に直接触れることで、デザイン性に優れた高付加価値製品の採用が増加

2019/11
大阪
(2024/10移転リニューアル)



2021/1
東京
(2024/5リニューアル)



2023/7
名古屋
(2025/6リニューアル予定)



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

10

先ほどから、オフィス向けの可動間仕切が大変好調という話をさせていただいてますが、その要因となる施策を2つご紹介させていただきます。

1つ目、大型ショールームの開設と増床を挙げます。

2019年11月大阪をはじめとして、東京、古屋と大型のショールームを開設してきました。それまで、お客様と主に図面でのやりとりということがメインだったんですけれども、大型のショールームを構えることで、当社製品の意匠性や遮音性、操作性といったものを、実際に体験、体感いただくことで受注の確率を高めることができました。前期、東京と大阪についてはリニューアルを行っていきまして、今期は名古屋のショールームをリニューアルする予定です。

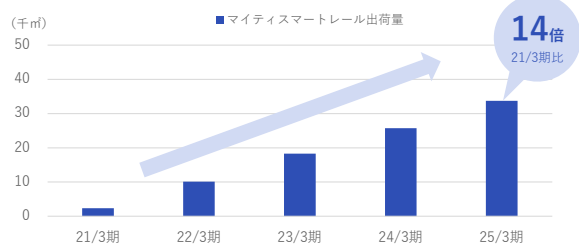
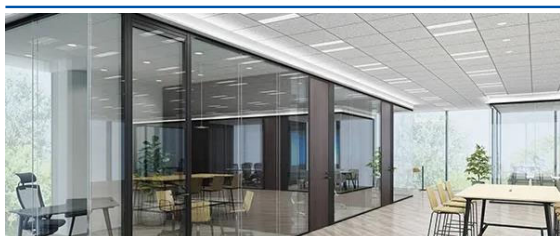
意匠性を高めた高付加価値製品が成長

小松ウオール

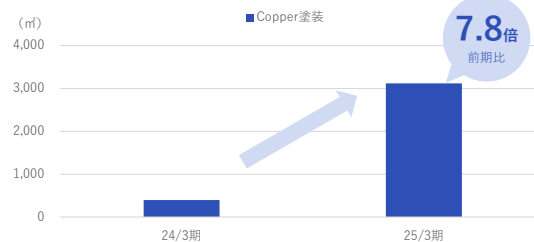
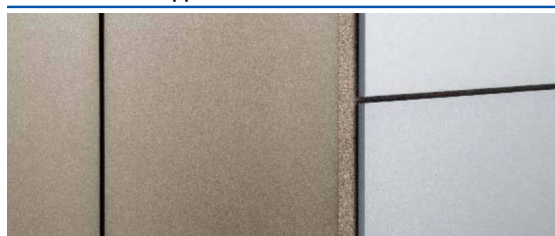
■ 2019年9月発売の意匠性を高めた連続ダブルガラス間仕切の「マイティスマートレール」の出荷量は21年3月期からの4年間で14倍に成長

■ 2023年10月発売のCopper Seriesは1年間で7.8倍に増加

マイティスマートレール（2019年発売）



Copper Series（2023年発売）



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

11

施策の2つ目として、高付加価値製品を挙げます。

これまで、高付加価値製品の開発に力を入れてきましたが、代表的なものを2つご紹介させていただきます。

左に映っております、マイティスマートレールという製品で、オフィス向けの高級な可動間仕切となっています。ダブルガラスのパーティションでして、遮音性や意匠性が高い内容となっています。発売当初である21年3月期と25年3月期を比較しますと、出荷数量が14倍に伸びておりまして、当社の代表的なラインナップの1つとなっており、近年では最もヒットした製品となっています。

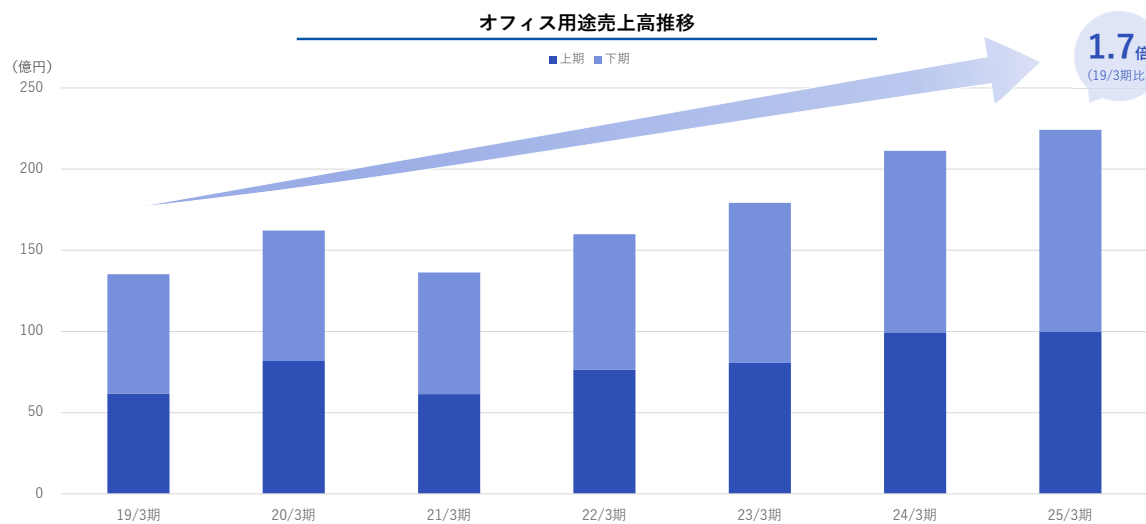
右に映っております。Copper Seriesですが、塗料メーカーと一緒に特殊な塗料を開発し、高い印象性を実現することができました。まだスタートして間もないですが、24年3月期と25年3月期を比較しますと、出荷数量が7.8倍に伸びており、大変好調なスタートを切っています。

マイティスマートレールにつきましては最初の大阪ショールームで展示を行いまして、Copper Seriesは名古屋のショールームで展示をしています。ショールームを開発して高付加価値製品を展示することで、実際にお客様に見ていただくことで、受注の確率を高め、また実際にご意見をいただく機会が増えましたので、製品のアップデートにも繋げることができました。このよいサイクルというものを引き続き今以上に続けていきたいと考えています。

オフィス用途売上高推移

小松ウオール

- オフィス移転工事の需要を取り込むため、デザイン事務所や事務器メーカー専門の営業拠点も開設し、オフィス向けを強化
- 2025年3月期のオフィス用途売上高は2019年3月期比で1.7倍に増加、今期も増収を見込む



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

12

2つの施策をご紹介させていただきましたが、改めて数字といいますか、効果のところをお話させていただきます。

こちらが当社のオフィス用途売上高推移になります。ショールーム開設前の19年3月期と25年3月を比較しますと、1.7倍に伸びています。会社全体の売上が同じ時期では1.4倍の伸びでしたので、この施策と効果というものが会社の業績向上に大変貢献していると捉えています。

2025年3月期 決算概要説明

2026年3月期 業績予想

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

13

2026年3月業績予想についてお話をさせていただきます。

業績予想

小松ウオール

■ オフィスのリニューアル需要が引き続き好調、トイレブースや学校向けでもデザイン性に優れた新商品を発売することから、売上高は前期比4.2%増収を予想。資材価格や運送費の大幅な上昇は一巡しており、増収を主因に営業利益は11.7%増益を予想

■ 配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%水準に変更、2026年3月期の配当は前期比倍増の130円を予想

単位：百万円	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期 通期予想		前期比 増減率
売上高	43,551	100%	44,616	100%	46,500	100%	4.2%
営業利益	3,640	8.4%	3,635	8.1%	4,060	8.7%	11.7%
経常利益	3,732	8.6%	3,756	8.4%	4,130	8.9%	10.0%
当期純利益	2,775	6.4%	2,650	5.9%	2,930	6.3%	10.5%
1株当たり当期純利益	149円04銭		145円64銭*		160円97銭		10.5%
1株当たり配当金	62円50銭		65円00銭**		130円00銭		100.0%

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。1株当たり当期純利益は分割後の株数で算出、過去実績も遡及修正

** 2025年3月期の配当は株式分割後の株数で算出、過去実績も遡及修正

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

14

今期ですね。予想としまして、売上高は465億円。営業利益で40億6,000万円、経常利益で41億3,000万円。当期純利益で29億3,000万円。1株当たり当期純利益で160円97銭。1株当たりの配当金は130円としております。

今期、オフィスのリニューアル需要が引き続き好調、可動間仕切が大変好調という風に見込んでいることに加えて、トイレブースや学校向けといった可動間仕切以外の製品、オフィス向け以外の製品においてもデザイン性に優れた新製品を発売することで、より業績の向上につなげていきたいと考えています。

配当方針をDOE3%から6%に変更をしております。今期は前期と比較しまして、1株当たりの配当金は2倍となる130円を予定しています。

haremo

小松ウラル

- シンプルかつ洗練されたデザインのトイレブースを発売、普及価格ゾーンを狙う
- オレフィンシートを採用することで、製造時に排出される二酸化炭素を塩ビシート製よりも減らし、環境にも配慮



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

15

今期のトピックをご紹介します。

「haremo」という新製品になります。トイレブースのシート貼り新しい製品になります。シートメーカーと一緒に高意匠のシートを開発することができました。オレフィンシートというものを使っているんですけども、製造時に排出される二酸化炭素は塩ビシートより少ないということで、環境にも配慮した製品となっています。高意匠と環境配慮、この2点をお客様にお伝えし、ご採用いただけるように取り組んでいきます。

2025年3月期 決算概要説明

中期経営計画「NEXT VISION 2028」進捗
(2024年3月期～2028年3月期)

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

16

中期経営計画「NEXT VISION 2028」の進捗についてお話をさせていただきます。当社の中期経営計画ですが、2024年3月期から2028年3月期までの5年間の期間を対象としてまして、前期末でちょうど2年が経過したところです。主に前期の振り返りと進捗についてお話をさせていただきます。

定量目標

小松ウオール

- 2025年3月の売上高は前期比2.4%増収、営業利益率は8.1%と前期に続き8%台を維持、一方ROEは7.0%と従来目標線だが、修正目標未達
- オフィス向け、トイレブース、学校向けの新製品発売により増収率を高め、資本政策見直しにより、ROEの改善を図る

	2028年3月期目標 (従来)		2028年3月期目標 (今回)	2025年3月期実績
R O E	5~8%	»	8%以上	7.0%
売上高平均成長率	3~6%*	»	4~6%*	8.7%*
売上高営業利益率	7~10%	»	8~10%	8.1%

* 2023年3月期を基準とした年平均成長率

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

17

まず、目標と結果についてお話をさせていただきます。

ROE5~8%の目標に対して、前期は7.0%という結果でした。

売上高平均成長率3~6%の目標に対して、2年間の平均で8.7%となっています。

売上高営業利益率7~10%の目標に対して、前期は8.1%という結果でした。

総じて目標以上の結果を残すことができていると捉えています。

既存間仕切事業の成長

新規製品の創出

生産・物流オペレーションの高度化

基本方針を3つおこなっています。既存間仕切事業の成長、新規製品の創出、生産・物流オペレーションの高度化とあります。それぞれの成果物をご紹介します。

既存間仕切事業の成長 2025年3月期進捗

- | 大型ショールームのリニューアル⇒東京（2024年5月）、大阪（2024年10月）
2026年3月期に名古屋の増床リニューアルを予定
- | 移動間仕切のオフィス分野での用途開発を目指し、中心一点吊りのダブルガラススライディングウォール「PIVO」を発売



PIVO

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

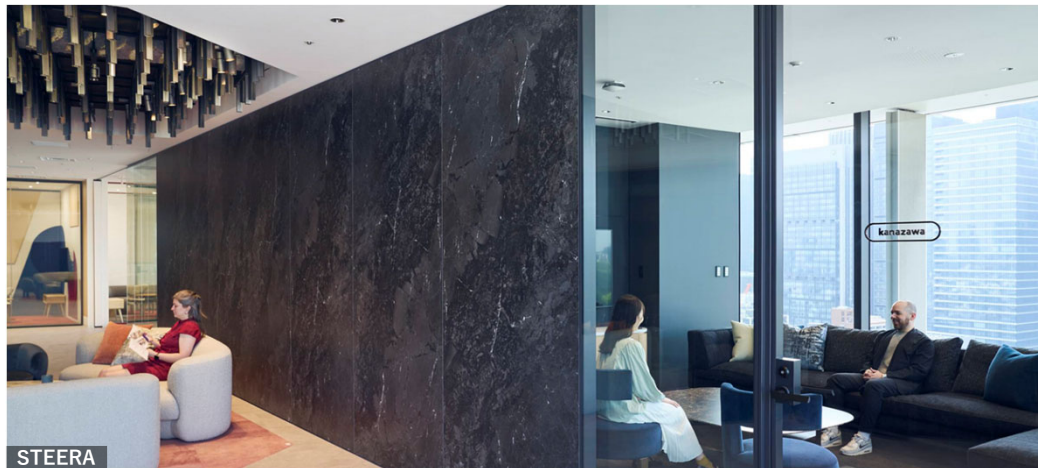
19

既存間仕切事業の成長においては、東京と大阪のショールームのリニューアルを前期に行うことができました。また、今期名古屋のショールームのリニューアルを予定しております。よりデザインされた空間で、当社製品をお客様に体験、体感いただけるように取り組んでいきます。

移動間仕切の新製品で「PIVO」という製品を開発することができました。ダブルガラスの移動間仕切の新製品になります。高い遮音性と意匠性を実現することができました。当社のコア技術である移動間仕切の技術を使っておりますので、操作性についても大変よい内容になったと自負しています。

新規製品の創出 2025年3月期進捗

| デザイン性を向上させた製品を開発・発売⇒意匠や家具の分野へ



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

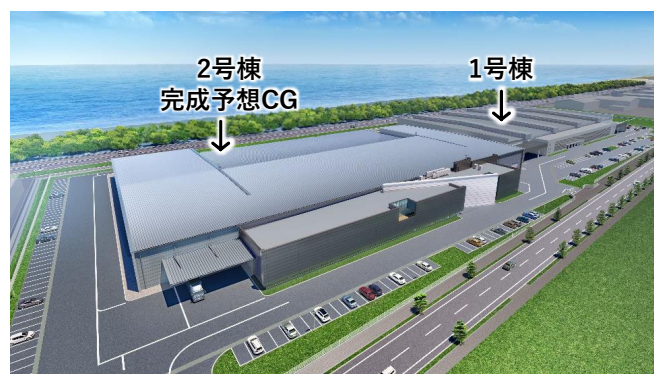
20

新規製品の創出においては「STEERA」という製品を開発することができました。オフィス向けのハイエンドのスチールパーティションになります。これまでのスチールパーティションですと、スチールやガラスといった仕上げ材が主でしたが、今回の「STEERA」ではタイルやファブリックといった新しい仕上げ材を標準のラインナップに加えており、高い意匠性を生み出すことができました。間仕切の分野においても、家具と同様に高い意匠性を評価いただいてご採用いただけるように取り組んでいきたいと考えております。

生産・物流オペレーションの高度化 2025年3月期進捗

- 2024年4月に加賀工場2号棟（新棟）の建設を公表、第三工場の可動間仕切の一部の生産ラインを移管し、生産能力増強
- 中期経営計画期間中の設備投資は150億円以上を計画
- 建設と操業開始時期の見直し（2025年1月公表済）を行ったが、土地造成を終え、2025年5月から建設開始、順調に推移

名	称	加賀工場2号棟（仮称）
主 な 事 業	可動間仕切の製造 研究開発	
投 資 金 額	約95億円	
建 築 面 積	約19,000㎡	
延 床 面 積	約19,700㎡	
建 設 開 始 年 月	2025年5月	
操 業 開 始 年 月	2027年5月予定	



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

21

生産・物流オペレーションの高度化においては、以前に公表させていただいておりますが、加賀工場2棟目の建築計画になります。アップデートした内容になっています。目的としまして、第三工場で今、大変好調な可動間仕切を作っているんですけども、その生産ラインの一部を移転と増強を行いまして、第三工場の空いたスペースをストックヤードとして活用し、併せて物流対策も行っていきたいと考えております。計画の見直しをしまして、操業開始は2027年の5月を予定しております。ちょうど今、土地の造成を終えまして、この5月に地鎮祭を行って着工に入っており、順調に推移している状況でございます。

2025年3月期 決算概要説明

資本コストや株価を意識した経営

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

22

資本コストや株価を意識した経営についてお話をさせていただきます。社内の整理が終わりまして、先日リリースを出した内容ですけれども、改めてこの場で皆様にお話をさせていただきますと思います。

■ 当社は資本コストを上回る資本収益性（ROE）を上げられておらず、資本効率（売上高当期純利益率と財務レバレッジ）を改善する必要

現状分析	
資本コスト	CAPMや株式益回りから考慮した当社の 資本コストは8%程度と推定
ROE	改善傾向にはあるが、 ROEは8%を下回っている
ROE要素分解	売上高当期純利益率及び財務レバレッジに改善余地
市場評価	PBR* 1 倍割れの状況が継続しており、 資本コストを下回るROEや成長性に対する投資家の厳しい見方 を反映していると推定 * PBR=ROE×PER

資本コストを上回るROEを実現するため、利益率改善や株主還元強化を進める必要

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

23

それまでの、当社の現状認識と課題について冒頭に触れたいと思います。

まず、資本コストにおいてはCAPMや株式益回りから考慮した当社の資本コストは8%程度と推定するに至りました。

ROEについては改善傾向にありますが、前期で7.0%ということで8%を下回っている状況です。

ROEの要素を分解しますと、売上高当期純利益率および財務レバレッジに改善余地があると考えました。

市場評価としまして、PBRは1倍割れの状況が継続していました。資本コストを下回るROEや、当社の成長性に対する投資家の方の厳しい見方を反映していると推定しています。

総じて資本コストを上回るROEを実現するために、利益率改善や株主還元強化を進める必要性があると考えました。

中期経営計画目標の上方修正

小松ウオール

■ 中期経営計画「NEXT VISION 2028」は想定を上回るペースで進捗、計画目標を上方修正

	変更前		変更後
ROE	5%～8%	≫	8%以上
売上高成長率	3%～6%	≫	4%～6%
営業利益率	7%～10%	≫	8%～10%

成長率と利益率の上昇のための追加施策

戦略検討チームの設立

- 製造、営業の主力メンバーで構成
- オフィスのリニューアル需要など成長領域での課題を抽出し、製販両面から改善策を検討
- 成長戦略の立案と、そのために不足するビジネスについて、M&Aも含めた改善策を検討

投資委員会を設置

- 関連役員等で構成し、ROICやIRRを用いた投資判断の徹底
- 加賀工場2号棟など大型投資案件で、収益性を踏まえた投資の可否を検討
- M&Aについても、収益性の観点から可否を検討

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

24

今回の整理に合わせまして、中期経営計画の目標の上方修正を行っています。

まずROEについては5～8%の目標を8%以上に変更しています。

売上高成長率3～6%の目標に対して、4%～6%。

営業利益率については7～10%の目標に対して、8～10%に変更しています。

企業価値向上に向けた具体的な取り組み

小松ウオール

- 中長期的に成長戦略を立案・実行し、利益成長を図る
短期的にはDOE6%を目安として株主還元を強化するとともに、資本コスト低減のためIR活動を強化するなどの施策を実行

売上高
当期純利益率の改善

資本効率性重視

投資委員会の設立、ROIC、IRRによる投資判断の徹底

成長戦略

戦略検討チームを設立し、M&Aを含めた成長戦略の立案と実行による売上高成長率と利益率の引き上げ

財務レバレッジの
改善

株主還元強化

DOE6%を目安に配当を実施

その他
(資本コスト低減策等)

IRの強化

投資家との対話、エンゲージメントの拡充による株価ボラティリティの低減
中計の着実な実行とIR強化による投資家の期待成長率の引き上げ

株価を意識した
経営の促進

役員報酬制度改定の検討開始
従業員持株制度の拡充（奨励金の引き上げ）

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

25

具体的な取り組みをご紹介します。

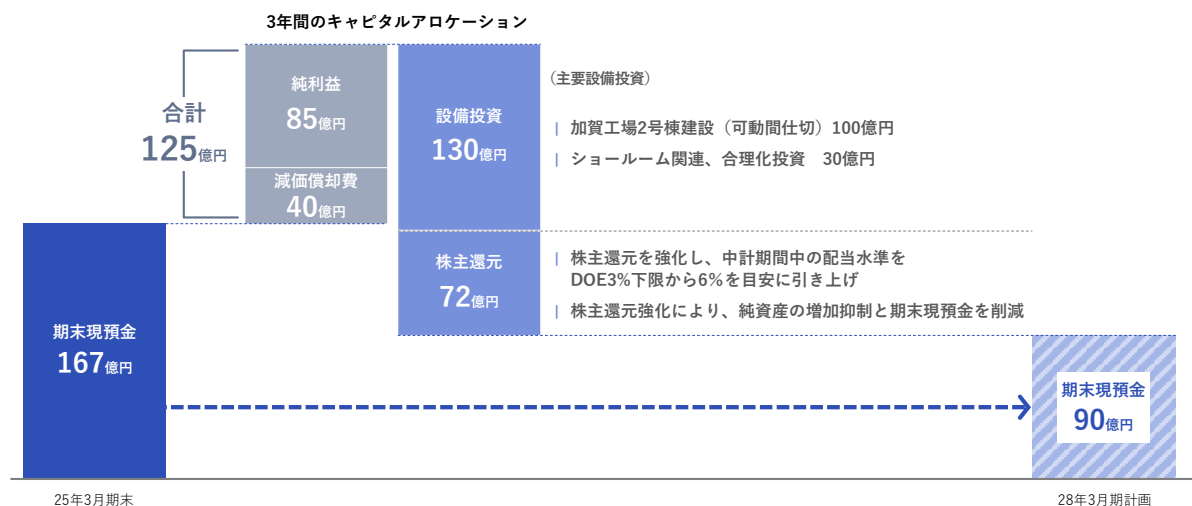
まず、利益率の改善において、戦略検討チームを設立し、M&Aを含めた成長戦略の立案と実行による売上高成長率と利益率の引き上げを行っていきたいと考えています。投資委員会の設立をしまして、ROICやIRRによる投資判断の徹底を行います。戦略検討チームですけれども、M&Aを含めた従来よりも幅広い選択肢の中で立案を行い、投資委員会で投資に対して、将来的な収益性がちゃんと見込めるのかということで精査を行いまして、実行につなげていきたいと考えています。

株主還元の強化については、DOE6%を目安に配当を実施します。これまで3.0%ということで、株主還元の強化を増配という形で行っていきます。

キャピタルアロケーション

小松ウオール

■ 今後のキャッシュインと現預金を使い、成長投資と株主還元を強化、2028年3月末の現預金は90億円（月商の2ヶ月強）の水準に削減



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

26

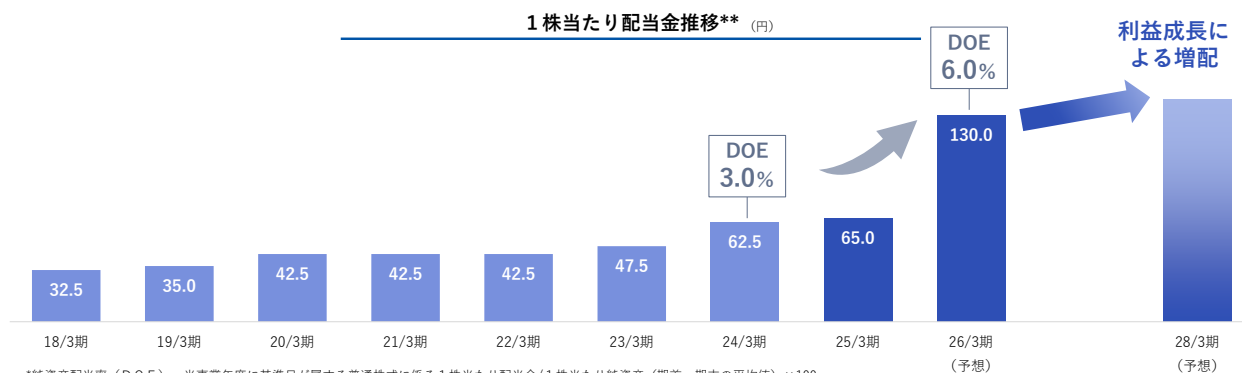
今後3年間のキャピタルアロケーションになります。前期末ですね。期末現預金は167億円でしたが、まずキャッシュインで純利益と減価償却費で125億円、キャッシュアウトで設備投資と株主還元で202億円を予定しています。2028年3月期には、期末現預金が90億円になる想定です。

株主還元方針の変更（増配）

小松ウオール

- 2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率（DOE）6%を目安とした配当へ引き上げ。なお、23年4月にはDOE3.0%下限に変更
- 上記方針に基づき、2026年3月期は前期比2倍の130円への増配を計画

純資産配当率*（DOE）6%を目安とした配当を実施
持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す



*純資産配当率（DOE）＝当事業年度に基準日が属する普通株式に係る1株当たり配当金/1株当たり純資産（期首・期末の平均値）×100
**2024年10月1日付で1：2の株式分割を実施。過年度の配当金は株式分割後の株数での配当金に遡及修正

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

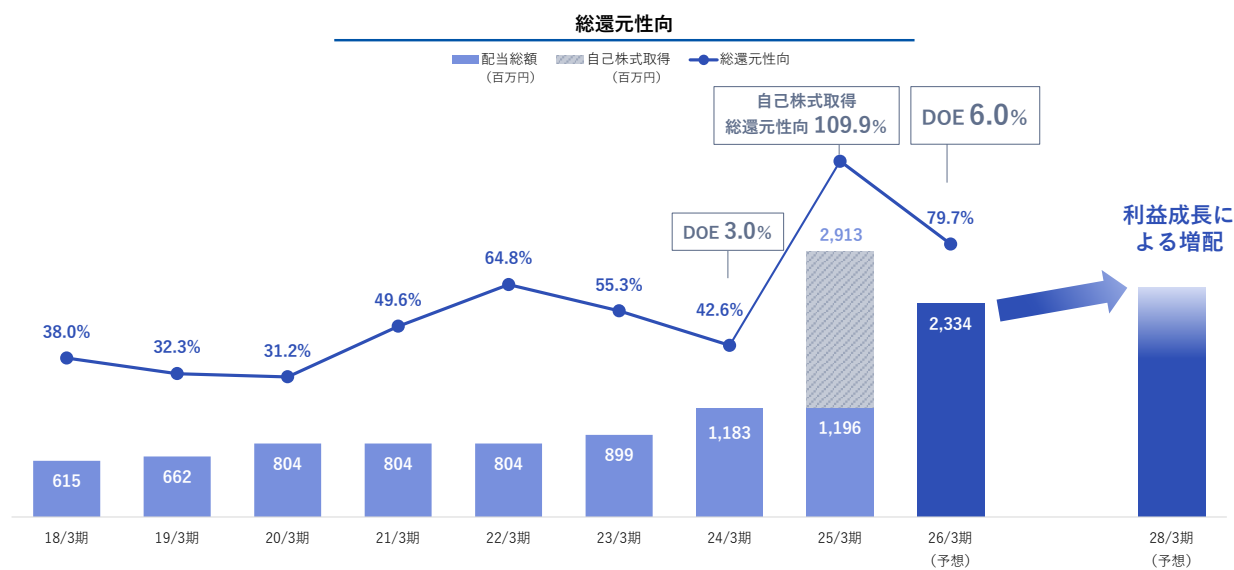
27

株主還元の方針の変更ということで、繰り返しの部分ですけれども、DOE6.0%ということで、今期は1株当たりの配当金は130円を予定しております。今後ですけれども、利益成長に伴って増配していけるように取り組んでいきます。

総還元性向

小松ウオール

■ 2026年3月期は大幅増配を実施予定、高水準の株主還元を継続することで適正な純資産を維持し、ROEの上昇につなげる



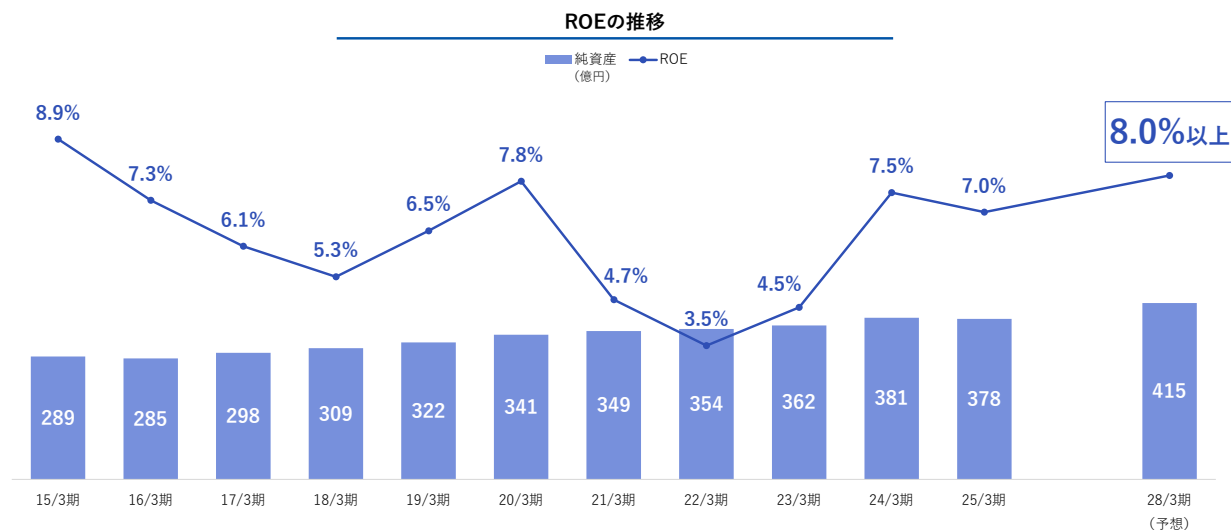
©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

28

ROEの推移

小松ウオール

■ 売上高当期純利益率の改善と株主還元強化により、中計最終年度の2028年3月期にはROEを8%以上に引き上げる



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

29

最後にROEの推移についてお話をさせていただきます。中期経営計画の施策と今後戦略検討チームで立案される施策の実行をもとに、売上高当期純利益率の改善を図っていきます。

また、増配しておりまして、株主還元強化ということで純資産の不要な増加、ROEでいうところの分母の不要な増加をさせないということで取り組んでいきます。

結果としてROE8.0%以上に2028年3月期までに達成できるように取り組んでいきたいと考えております。

私からの説明としては以上になります。

2025年3月期 決算概要説明

Appendix

株主との対話について

小松ウオール

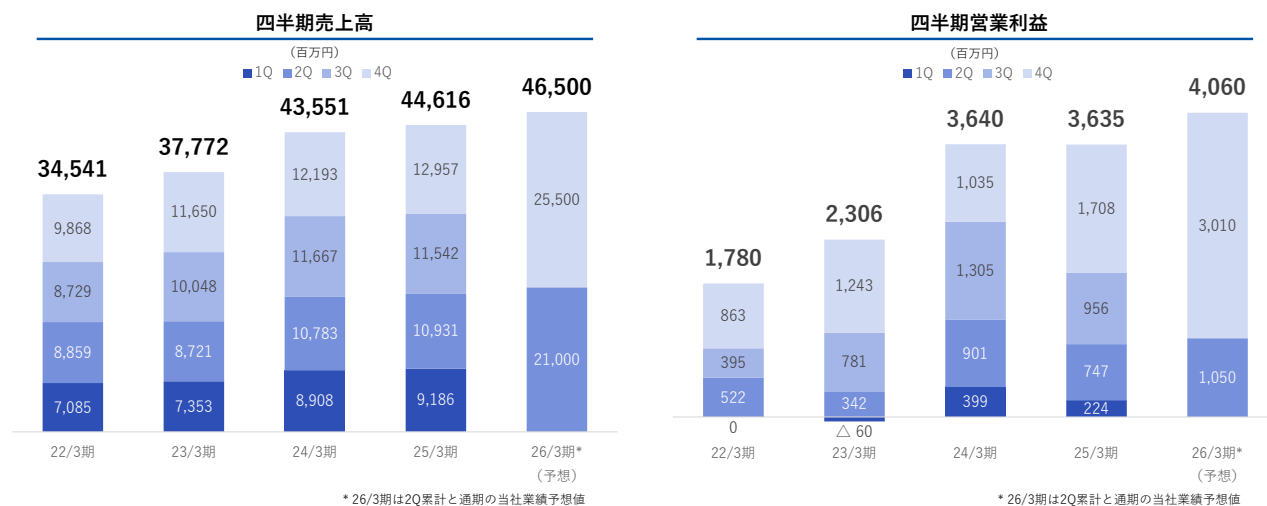
IRの実施状況	2023年3月期2Qより、決算説明資料の開示ならびに決算説明動画を配信 2023年3月期には決算説明資料ならびに中期経営計画資料を開示、決算説明会を実施 2024年3月期より、2Qと4Qの決算説明資料開示に加えて、各四半期で決算補足資料を開示
株主との会話の対応者 対応回数	代表取締役社長 加納 慎也 機関投資家とのミーティングは2025年3月期は14件実施
対話の主なテーマや株主への 関心事項	事業概要／決算概要 中期経営計画の詳細 当社の競争優位性／中長期的な競争戦略 資本政策、PBR1倍に向けた取り組み サステナビリティへの取り組み 役員報酬について等
経営陣や取締役会に対する 実施状況	- 社長自身が機関投資家と対話をしており、他の取締役に適宜フィードバック - 投資家の意見や対話状況について、2025年3月期から年に2回取締役会で報告
フィードバックを踏まえて 取り入れた事項	「資本コストや株価を意識した経営の実現」について取締役会で議論し、配当方針の変更を決議 - 役員報酬制度の改定を検討

四半期業績推移

小松ウオール

■ 2025年1-3月期の売上高はオフィス向けの好調などから6.3%増収、営業利益は人件費や物流コスト上昇等を吸収し65.0%増益

■ 2026年3月期もオフィス向けの好調が続くことを主因に増収を予想、資材価格や物流費の大幅な上昇も一巡しており、営業増益を予想

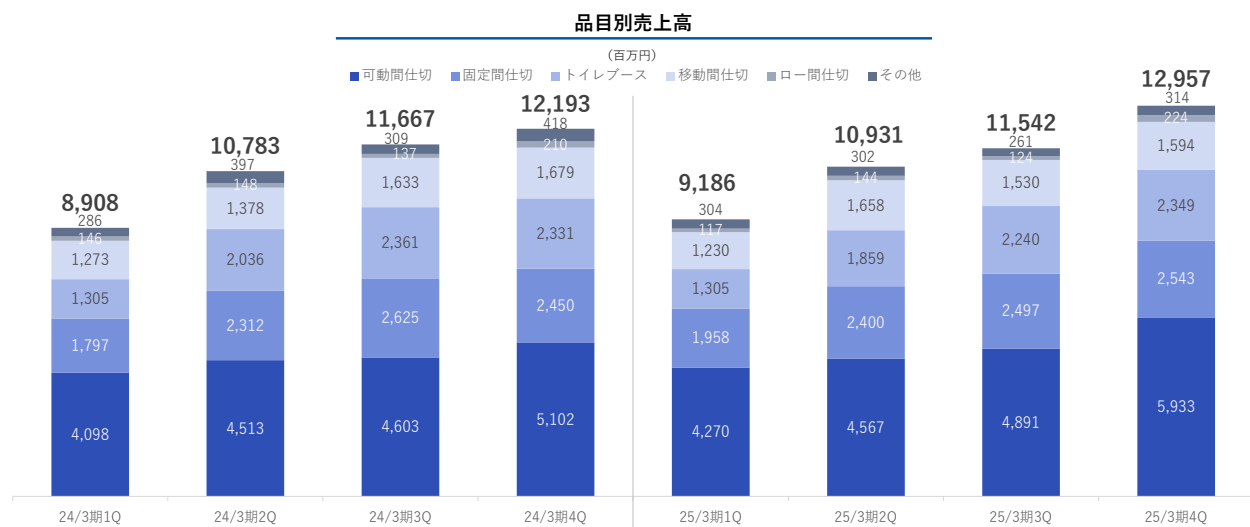


©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

四半期品目別売上高推移

小松ウオール

■ 2025年1-3期はオフィス向け中心に可動間仕切が好調に推移、固定間仕切やトイレブース、ロー間仕切も堅調に推移



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

33

貸借対照表

小松カーブ

■ 増配や自己株式取得など株主還元強化により、現預金と純資産が減少。自己資本比率は80.8%と引き続き高い財務安全性を維持

単位：百万円	2023年3月期末	2024年3月期末	2025年3月期末	前期末差
流動資産	29,999	32,539	31,322	△1,217
現預金	15,579	17,640	16,714	△926
売上債権・契約資産	13,181	13,615	13,231	△384
棚卸資産	1,023	1,123	1,117	△6
固定資産	14,760	14,915	15,433	518
有形固定資産	11,922	11,767	12,260	493
無形固定資産	420	385	415	30
投資その他の資産	2,418	2,763	2,757	△6
総資産	44,760	47,455	46,756	△699
負債	8,535	9,388	8,965	△423
買掛金	2,345	2,350	2,323	△27
有利子負債	0	0	0	0
純資産	36,225	38,067	37,790	△277
負債純資産合計	44,760	47,455	46,756	△699

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

34

キャッシュ・フロー計算書

小松ウオール

■ 経常増益や売上債権の減少等により営業キャッシュ・フローは3,327百万円、フリーキャッシュ・フローも2,858百万円のプラス

■ 増配に伴い配当金の支払額は増加したが、定期預金の払戻等により期末現預金は13,649百万円と前期並み

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,676	4,273	3,327	△946
税引前当期純利益	2,446	3,744	3,802	58
減価償却費	1,073	1,127	1,160	33
売上債権の増減額（△は増加）	△2,064	△434	383	817
棚卸資産の増減額（△は増加）	△204	△99	5	104
仕入債務の増減額（△は減少）	389	4	△26	△30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△636	△1,171	△469	702
有形固定資産の取得による支出	△583	△916	△1,323	△407
定期預金の預入・払戻による支出入	0	0	1,000	1,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△810	△1,056	△2,729	△1,673
配当金の支払額	△804	△1,041	△1,229	△188
自己株式の取得・売却による支出入	-	△0	△1,485	△1,485
現金及び現金同等物の期末残高	11,476	13,521	13,649	128
フリーキャッシュ・フロー	1,040	3,102	2,858	△244

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

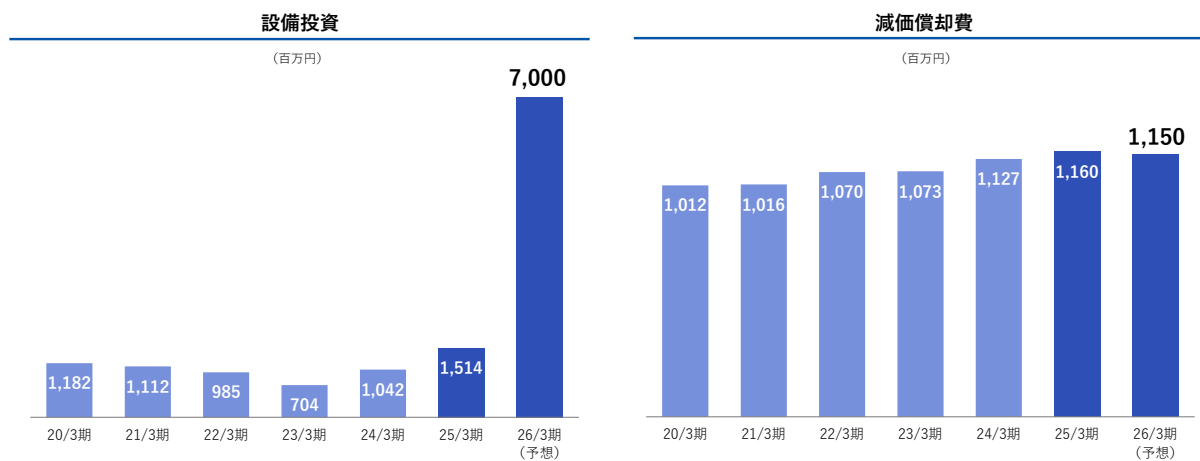
35

設備投資、減価償却費

小松ウオール

■ 2025年3月期は東京や大阪ショールームへの投資や既存機械設備の維持更新等で1,514百万円の設備投資を実施

■ 2026年3月期は加賀工場2号棟建設、名古屋ショールームへの投資等で7,000百万円の設備投資を計画



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

36

サステナビリティ推進

小松ウオール

■ 特定したマテリアリティに基づき、マテリアリティ経営を推進する

	マテリアリティ	テーマ	関連するSDGs
E	持続可能な循環型社会の実現	- カーボンニュートラルに向けた取り組み - 再生可能エネルギーの利用 - 廃棄物削減と資源の有効活用	   
	製品を通じた気候変動対応への貢献	サステナビリティ製品対応に向けた製品開発・改良	    
S	人材開発	人材育成の強化	  
	Well-being	- エンゲージメントの向上 - 働きがいの向上、ワークライフバランス、健康推進 - 人権・多様性の尊重と多様な人材の活躍 (ダイバシティ・エクイティ&インクルージョン)	   
	DX推進と生産性の向上	デジタルデータの活用と社内業務の協働によるビジネスモデルの構築	 
	ステークホルダーエンゲージメント	- リーダーシップの発揮 - サプライヤーとの共存共栄 - 顧客満足・信頼の追求	    
G	ガバナンスの更なる改革	- コンプライアンスの徹底 - 組織体制の全体最適化	   
	リスクマネジメント	災害対策、リスク管理体制の強化	   

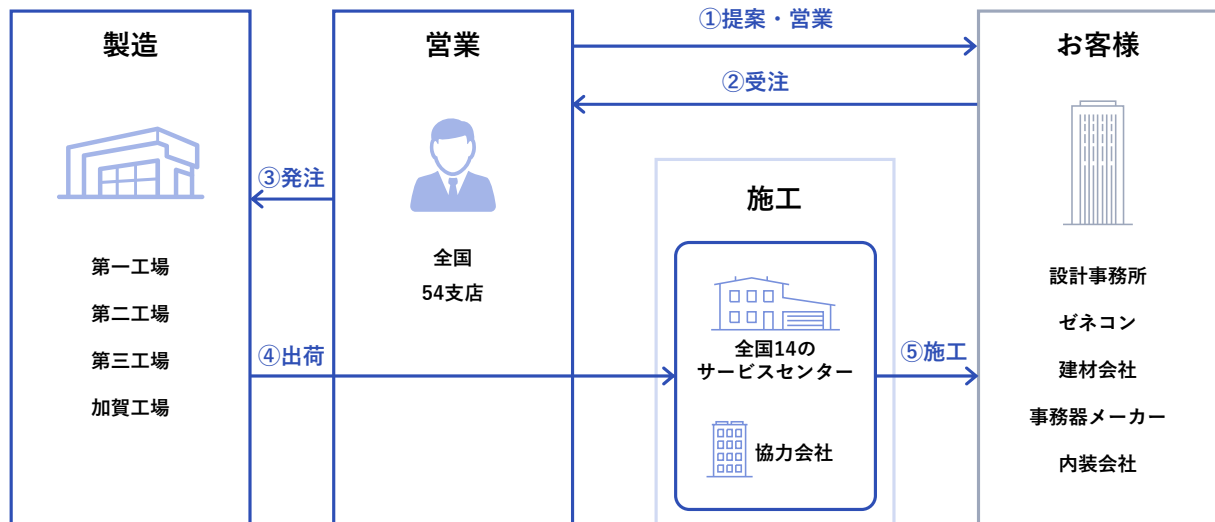
©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

37

ビジネスの流れ

小松ウオール

■ 製造から施工まで当社で対応、営業は全国54支店、製造は4工場



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

38

オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

工場

小松ウエル

■ 石川県小松市、加賀市の4工場で間仕切・トイレブース・ドアを製造

第三工場

可動間仕切の製造



加賀工場

ドアの製造



第一工場

移動間仕切の製造



本社・第二工場

本社及び
トイレブースの製造



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

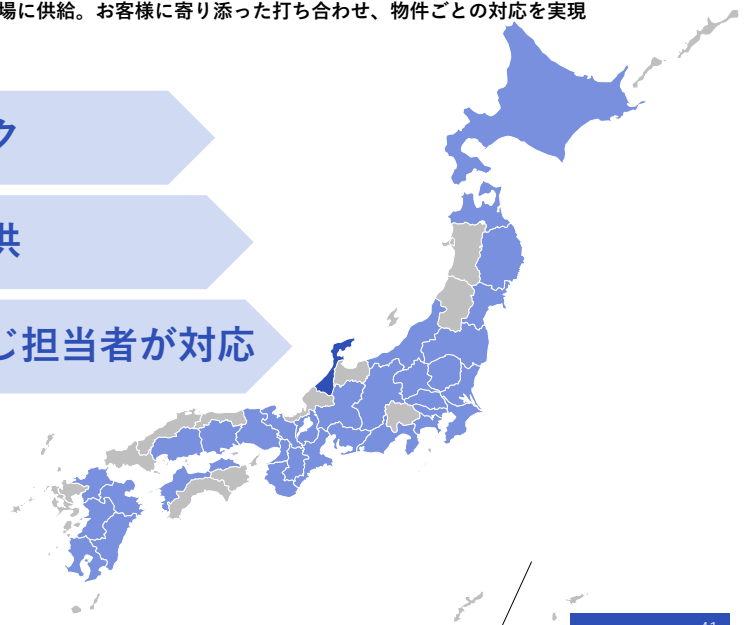
40

■ 全国に54拠点の支店を配置、全国に安定した納期、品質で市場に供給。お客様に寄り添った打ち合わせ、物件ごとの対応を実現

■ 地域での強いネットワーク

■ オーダーメイド品の提供

■ 受注から施工まで同じ担当者に対応



*青色の都道府県には支店を設置

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

オーダーメイド対応へのこだわり

小松ウール

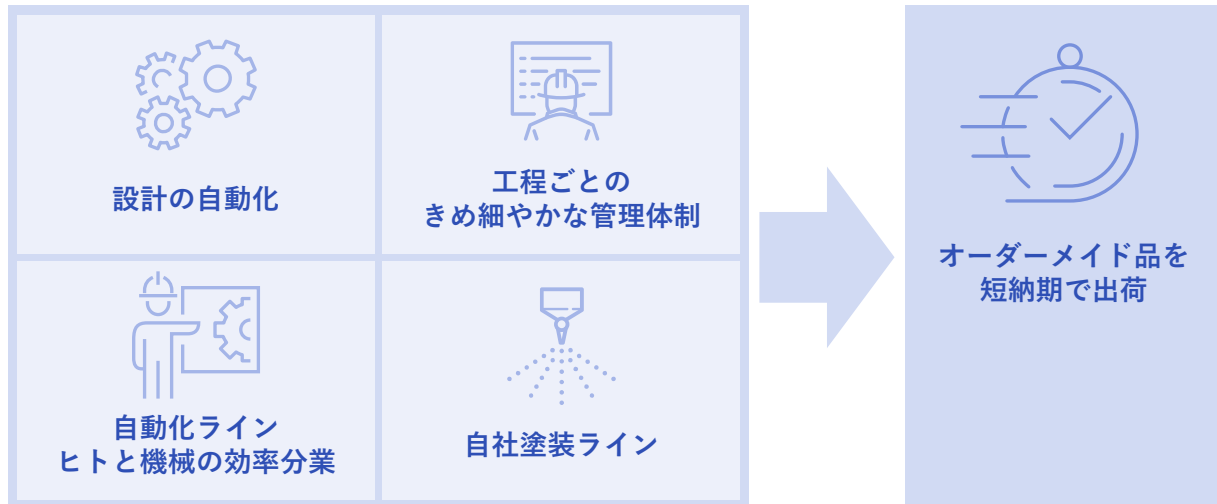
■ 自社開発品の提案のみならず、設計事務所などからの要望に沿った製品も開発・設計



オーダーメイドを短納期で成し遂げる生産ライン

小松ウール

■ 小ロット多品種生産ができる仕組みを作り、オーダーメイド品を効率的に生産。受注から出荷まで3~4週間で対応



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

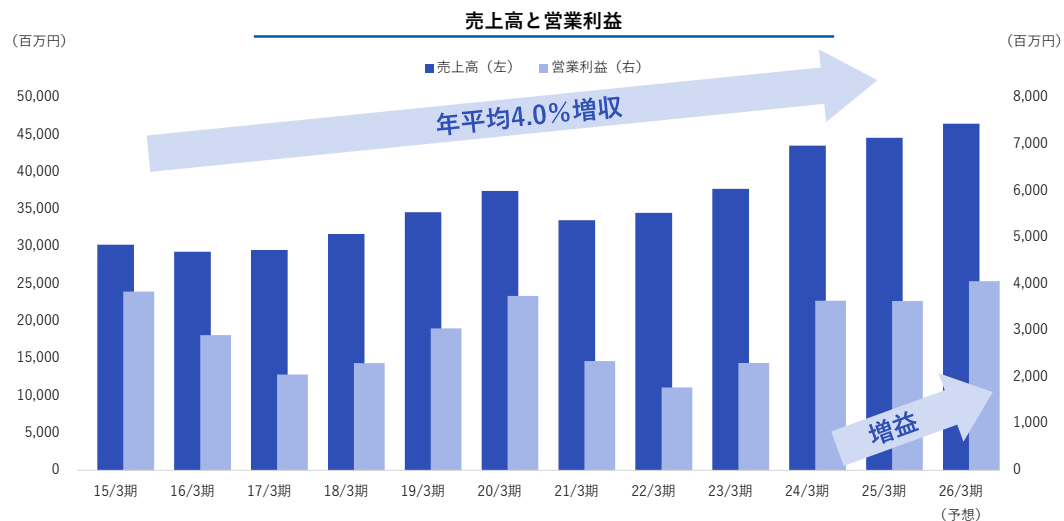
43

業績推移

小松ウール

■ 間仕切需要拡大に伴い、売上高は2025年3月期まで過去10年間で年平均4.0%増収

■ 2025年3月期はオフィス向けなどが好調で増収、売上総利益も増益となったが、物流費等の販管費が増加し、営業利益は前期並み



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

44



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社
社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。